

周波数逼迫対策のための国際標準化連絡調整事務 令和3年度事前評価結果

(5点満点)

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
空間伝送型ワイヤレス電力伝送システムの国際標準化に向けた国際機関等との連絡調整事務	R3-R5	<ul style="list-style-type: none"> ・ITU-R SG1, SG3, SG6, IEC CISPR等会合等の国際標準化機関に出席して、各国の空間伝送型ワイヤレス電力伝送システム(Beam WPT)の制度化状況や対応方針を調査・分析し、我が国のWPT作業班の検討結果に基づいて寄与文書を提出することにより、審議を主導することは必要であり、対象とする技術・実施体制・予算額は妥当であると思われる。 ・空間伝送型WPTは、その利用形態から、WPTシステムとして有望であるが、無線通信への影響が懸念される。そのようなシステムの国際標準化に対して、我が国の考え方や基準を反映させることは重要であり、本連絡調整事務を実施し、有効な結果を得て頂きたい。 ・日本におけるWPTの組織的な検討は世界の中でも注目されており、既存の無線システムとの電磁環境両立性および新しい産業創出の両面から、標準化が重要である。 	3.9
Connected Automated Vehicleに必要な無線通信技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	R3-R5	<ul style="list-style-type: none"> ・ITU-R SG5研究課題261等会合等の国際標準化機関に出席して、各国のConnected Automated Vehicle(CAV)に必要な無線通信技術の動向調査や意見交換を行い、CAVに必要な通信要件にかかるITU-R勧告等に、我が国の状況(CAV用の周波数帯や無線技術)を盛り込むことで、国際的な調和を図ることは必要不可欠であり、対象とする技術・実施体制・予算額は妥当であると思われる。 ・日本に既に導入されているVICS(電波ビーコン5.8GHz、光ビーコン)の扱いをどのようにするかが最重要案件である。VICSレーダー及び対応カーナビがかなり普及しており、そのサービスを持続させるか否かでユーザー評価が大きく変わる。今後の政策判断の材料を取得することに本調整事務の意義がある。 ・自動運転の高度化のためには、V2X通信技術の高度化と普及が極めて重要である。我が国の基幹産業のひとつである自動車の将来にとって本技術の国際標準化は避けては通れない事項であり、取り組みの推進が必要である。 	4.2

周波数ひっ迫対策のための国際標準化連絡調整事務 令和3年度事前評価結果

(5点満点)

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
WRC-23に向けた移動通信の国際協調のための国際機関等との連絡調整事務	R3-R5	<ul style="list-style-type: none"> ・WRC-23に向けた移動通信の国際協調のための国際機関等との連絡調整事務として、国際標準化動向や諸外国の調査、IMT関連技術の国際標準化に向けて、我が国の周波数共用技術や干渉低減技術等の検討結果を最大限反映させるための、関連国との連携の強化・維持、国際標準化会合への提案及び現地審議の支援を行うことは妥当であり、必要性が高い。また、国際ワークショップへの参加や国際標準化会議の日本誘致にかかる支援も妥当であると思われる。 ・移動通信システムについては、周波数およびその技術が、我が国内の使用周波数および使用技術と調和のとれたものであることの必要性が特に高い。したがって、本案件は、我が国として積極的に行っていくべきものである。 ・5Gに関する国際標準化への我が国からの寄書が中国等の先導諸国に比べて少ない点は明らかである。寄書の数や参加人数等を増加させることが次の5Gの後継となる通信システムへつながることから有効な支援を実施いただきたい。 	4.2